

学校評価（職員アンケート）考察 ～令和6年度後期～

○重点4項目の実践

「①時間を守る」「②清掃ができる」「④ことば遣い」は「よくできた」「できた」が7割以上を占めているが「③あいさつ」が55%で昨年度より20ポイント減っている。いずれも日々の生活の中で指導が必要な事項になるため、今後も丁寧な長期的な指導を心がけていく必要があると思われる。

○確かな学力の育成

概ね高い肯定的な取り組みが行われていることがうかがえる結果であるが、今年度前期、「⑥ICTを利用した授業改善」が65%と低かったが、後期は71%と若干上昇した。国や県がICT教育を推進していく中で、学校全体での授業でのデジタルツールの活用など職員研修などに取り組んで、活用率を高めていきたい。

「⑤家庭学習の習慣のための課題の出し方の工夫」の項目が63%と低く、昨年度より10ポイント減少している。配慮の必要な生徒が増える中、一人ひとりにあった課題を生徒自らが選択できるようにするなど、来年度導入するスタディアプリなどを使って教師の負担を軽減しながら進めていきたい。

○豊かな心と健やかな体の育成

どの項目についても90%程度以上の肯定的な取り組みができていることが伺える。引き続き「命の大切さ」や「思いやりの心」を養い「いじめや不登校」のない組織的な取り組みを続けていきたい。

○信頼される学校・開かれた学校

昨年までの課題であった「⑧勤務時間の適正化」について肯定的な割合が84%と昨年度より9ポイント上昇している。職員連絡・会議資料をデジタル化するなどした取り組みが少しずつ成果をあげていると考えられる。

また、「③生徒や保護者の相談・要望を一緒に考える」が100%、「⑥職場で生徒や授業のことを話しあえる」が98%あり全職員が協力して生徒のために精一杯取り組んでいることが伺える。

仕事の効率化を図るとともに、課題を共有して組織的に対応できる、「こども・家庭・地域」から「信頼される学校づくり」を今後も目指していきたい。